



新教出版社 出版通信

2021年
4月

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1 Tel: 03-3260-6148 Fax: 03-3260-6198
ホームページ: <http://www.shinkyo-pb.com>

神の言葉と契約

出エジプト記19章—24章の研究

大野恵正「著」

3月19日発売

神顕現・十戒・契約の書・契約物語

モーセ五書の中心問題を記す基層資料は、申命記主義者によって信仰文書としての高みへと決定的に引き上げられた。それは更に、ヤハウィストによって上書きされ、最後に祭司資料編集者によって創造論的感性によって仕上げられていく。この伝承の壮大なドラマを文献学的に解明した力作。

著者のおおの・よしまさ氏は1939年生まれ。東京神学大学院修了。日本基督教団長野原町教会、伊東教会、浜松教会牧師を経て2008年まで活水女子大学教授、現在同大学名誉教授。

【目次より】

序論

第1章 研究史概観
第1部 ユリウス・ヴェルハウゼンからエーリッヒ・ツェンガーまで

第2部 1980年代後半から今日に至る研究

第2章 文献分析の指標

第3章 物語の文献学的分析

第4章 十戒 20章2節-17節——その成立と内容をめぐって

第1部 出エジプト記20章2-17節と申命記5章6-21節の共観の問題

第2部 文型・構成・歴史的問題

第3部 十戒成立の問題

第5章 契約の書 20章22節-23章33節

第1部 研究史瞥見

第2部 積義的研究

まとめ

第6章 出エジプト記19章-24章の成立史

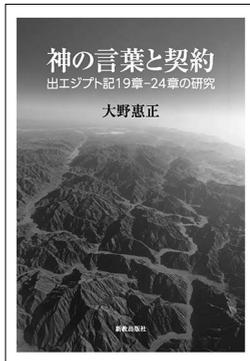
第1部 神顕現・契約物語の基本層の構成と意味

第2部 申命記主義的編集層

第3部 基本層への増補もしくはヤハウィストの編集層

第4部 祭司的資料層と祭司的編集加筆

◆A5判・531頁・本体5500円



● 1 月刊行



ジーザス・イン・ディズニールンド

ポストモダンの宗教、消費主義、テクノロジー

デイヴィッド・ライアン著／大畑凜、小泉空、芳賀達彦、渡辺翔平訳

世俗化論の想定に反して多様な宗教実践が開花しているポストモダン社会。監視社会論の泰斗がその謎と新たな宗教の可能性に迫る。現代を生きる信仰とは？

◆四六判・本体 3500 円

● 1 月刊行

カール・バルト研究

絶対的逆説を指さす神学

宇都宮輝夫

◆ A5 判・本体 3600 円

聖書解釈学という切り口から見えてくるもの、弁証法やアナログアを通して浮かび上がる福音理解、神学史家としての慧眼の秘密など、半世紀に及ぶ研究の総決算。



● 1 1 月刊行

創世記 II

カルヴァン旧約聖書註解

◆ A 5 判・並製・本体 4500 円

堀江知己訳

◆ 上製函入判・本体 6000 円

II は創世記 24 章以下、イサクからヨセフにいたる父祖たちの物語。宗教改革者の積義の真髄を示す大作。1984 年刊行の I に続き、36 年ぶりの、待望の完結。愛書家のために上製函入版を限定 100 部制作。



● 1 1 月刊行

日韓キリスト教関係史資料Ⅲ

1945—2010 富坂キリスト教センター編 ◆ A 5 判・本体 15000 円

日韓の貴重な資料 500 点以上を収録。アジア太平洋戦争における日本の敗戦から日韓基本条約締結までの交流を第 I 部、韓国民主化闘争と日韓連帯の動きを第 II 部、そして戦後補償問題を含む日韓の交わりと統一への模索を第 III 部とする。韓国民主化運動における日韓連帯の記録は特に充実。



ジャン・カルヴァン著／森川甫訳

共観福音書註解 下

マタイ・マルコ・ルカの三福音書を対観しながら記された註解書。福音書の「調和」を見出そうとする改革者の情熱。上巻の刊行から36年ぶりの邦訳完結となる。
A5判・予価85000円

カリストス・ウエア著／松島雄一訳

正教の道 キリスト教正統の生き方

正教会の全体像を知る上で今や古典的定番となった原書の待望の邦訳。正教の教えを簡潔に説き、古代の教父、現代の著作家、正教の祈祷文なども豊富に引用され、その靈性の深さと広さに迫る。
四六判・予価25000円

鶴沼裕子著

逢坂元吉郎

日本の伝統的な宗教性に掉さず「心身一体」観的信仰理解と独自の神秘性を帯びた聖餐論・教会論を展開した逢坂（1880—1945）。今日顧みられることの少ないその思想世界を再構成し、近代日本キリスト教史上の意義を再考した意欲作。
四六判・予価22000円

● 2月に出た本と雑誌

ヒップホップ・アナムネーシス

山下壮起・二禾信編

ラップミュージックの救済



気鋭の執筆陣の論考・小説や、BLM運動と共闘する黒人牧師の説教、日本で活躍する6名のラッパーのインタビューなどを収録し、ヒップホップが歌う現実と救済を示した待望の書。
◆ A5変型判・本体25000円

山上の説教を生きる

ジョン・デア著／志村真訳 八福の教えと平和創造

「心の貧しい人々は幸いである」で始まる八福の教え。この「幸いだ」というイエスの祝福を平和創造へと「立ち上がって前進せよ!」という呼びかけに大胆に読み替える。
◆ 四六判・本体19000円



福音と世界

◆ 税込6600円

3月号 死刑なき世界へ

寄稿者…田鎖麻衣子、守中高明、市野川容孝、太田昌国、清未愛砂、石原明子／西原廉太／勝村弘也、有住航、村澤真保呂、栗田隆子、金迅野、好井裕明、土井健司、マニエル・ヤン、辻学

●山下壮起さんと二木信さんの編書『ヒップホップ・アナムネーシス——ラップ・ミュージックの救済』、ついに刊行となりました。二〇一八年に山下さんの『ヒップホップ・レザレクション』の企画をスタートさせたときは、アーティスト名の表記法から予想される読者層まで、すべて手探りの状態でした。当時を振り返ると、『アナムネーシス』のような野心的な書籍を刊行できたことが不思議にすら思えます。ただ強く自戒したいのは、これはけっしてわたしの作った本ではないということ。山下さんが切り開いたヒップホップ×キリスト教という領野がなければ、なにもはじまりませんでした。また、音楽ライターとしての経験と知識と愛情を備えた二木さんの力がなければ、今回の本は実現できなかったでしょう。もちろん、インタビュイーや執筆者のみなさんもうまでもありませんし、デザイナーやカメラマンの働きも必須でした。ほかにも、お名前こそ出ませんが、同書の制作では本当に多くの方の力を借りています。CDのように Special Notes を載せたかったのですが、紙幅の都合で断念せざるをえませんでした。だからここで言いたいのは、『ヒップホップ・アナムネーシス』は、これら全員が主役となりラップ・ミュージックの救済

を表現した、「わたしたち」の本だということ。このことは、一冊の本である以上——読者がいなければ本は成立しません——読者の方々も同じです。つまり、『ヒップホップ・アナムネーシス』は、書き手、インタビュイー、協力者、これから出会う読者、すべての「わたしたち」の本なのです。それが、ヒップホップ的であり、またキリスト教的であるということではないでしょうか。(堀)

●小社の本の多くを読者に届けてくれているのがキリスト教専門書店ですが、一般書店と同様、廃業するお店がとみに増えています。全国六個所にあったCLC グループ店や徳島キリスト教書店は昨年店じまいしました。今年は沖縄キリスト教書店がいったんお店を閉じることが決まっています。書店の経営が厳しいことはつとに語り尽くされている観もありますが、では打開策は、となるとなかなか妙手が浮かびません。明らかなのは取引条件などの業界構造的要因と書物や読書のあり方をめぐる社会状況という、内外両面の課題があることです。この両者に真剣に取り組むなら、必ずや展望を開けるはずなのですが、良い本との出会いや読むことの愉しさを求める思いは、IT 時代にも決してなくなっていないのですから。(小林)

福音と世界

2021年
4

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料(送料共) 8760円

特集・監獄という問題

産獄複合体について——公共の敵資本主義

アポリシヨニスム —— アンジエラ・テイウイス

自由を奪われた人たちの人権と尊厳の保障を求めて——入管収容と刑事拘禁を中心に

—— 海渡雄一

ネーションを超えた反「入管体制」運動の遺産 —— 盧恩明

〈監獄化〉状況に住まうこと —— 友常勉

長い道をトポトゴと歩いて —— 宇賀神寿一

私の人生と救援連絡センター —— 宇賀神寿一

【新連載】

◆ 間隙を思考する 非同時代性のために 1——田崎英明

【注目の連載】

◆ 古代イスタエル文学史序説 2 —— 勝村弘也

◆ 福音のフラグメント 4 —— 有住航

◆ 霊性のエロジーあるいはアマミテア 4 村澤真保呂

◆ I Say a Little Prayer 開かれる世界 13 —— 栗田隆子

◆ 今を生きるみこころ 13 —— 金迅野

◆ 新約釈義 第三メモテ書 13 —— 辻 学

◆ くまさんのシネマめぐり 16 —— 好井裕明

◆ 教文学入門 20 —— 土井健司